

久米島町について



◆はじめに◆

久米島町は平成14年4月1日、島にあった2つの村（具志川村、仲里村）が合併して誕生した新しい町です。沖縄本島は那覇から西へ約90kmに位置する離島です。行政区面積は63.65km²で久米島本島、奥武島の有人島及び無人島で米軍の射撃場となっている鳥島、さらに鹿児島県徳之島の西方にある沖縄県内唯一の活火山島でもある硫黄島、他、オーハ島を含む5つの島から構成されています。

◆地形・地質◆

島の北部にラムサール条約に登録されている大岳、宇江城岳、南東部にはアール岳を中心とする山地が連なり、南西海岸は緩やかな砂丘海岸で北西海岸（西銘崎）一帯から島南西部を取り囲むように隆起サンゴ礁が延び内海（イノー）を形成しています。南東部海岸は平成8年に「日本の渚100選」に選ばれたイービーチがあり美しい海浜地帯となっています。また、島の東側（奥武島～御願崎）には隆起サンゴ礁、砂州（はての浜）が約8kmにわたって延び美しい景観をつくっています。

第三紀中新世のアール岳や鮮新世中後期の宇江城岳の火山岩類と鮮新世初期の島尻層群、更に琉球石灰岩等で形成されており、観光の名所でもある畳石は柱状節理で平成19年に「日本の地質100選」に選ばれています。

◆気候◆

年間平均気温22.7℃、年間平均最高気温25.3℃、平均最低気温は20℃、降水量は年間2,138mmとなっており、年間を通して温暖な気候に恵まれ、島の西側から北上する黒潮海流が豊かな漁場を形成しています。

◆産業◆

農業を基軸とした産業構造が形成されており、さとうきび作を中心に、肉用牛、野菜（ゴーヤー、さやいんげん、さといも等）、電照菊等の花卉類、葉たばこが生産され、経営の複合化が進んでいます。他にかんきつ類及びマンゴー等の熱帯果樹も栽培され、作物の多様化も進んでいます。また、周辺海域には好漁場を有していることから、周年を通して漁業が盛んであり、近年では栽培漁業やクルマエビを代表とした育てる漁業に力を入れています。

◆特産品◆

国指定文化財の久米島紬、泡盛、味噌、焼き物などに加え、近年は海洋深層水を利用したミネラル水、塩、化粧品等も開発され、その生産は年々伸びており地場産業として県外にも広く知られるようになってきました。